

学校力向上に関する総合実践事業の推進 ～子どもの姿に「一中風土」を映し出す取組～

網走市立第一中学校
学級数 11
(校長 徳増 秀隆)

1 はじめ

学校では、Society5.0の社会を迎える大変革の時代に加えて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止などに迅速かつ確かな対応が求められている。さらに、いじめ・不登校などの問題が複雑化するとともに、生徒個々の特性に関わる多様なニーズが保護者から寄せられている。そのなかで学校は、社会に開かれた教育課程の実現を目指し、カリキュラム・マネジメント、個別最適な学びと協働的な学び、1人1台端末を活用した授業改善の実践に加えて、働き方改革の実現に取り組みなければならない。

2 持続可能な教育活動への転換

本校は、校区に網走小学校と潮見小学校を含み、北海道網走南ヶ丘高等学校に隣接する位置にある。地域的には非常に教育熱心で、学校に寄せられる期待は大きい。その期待に応えるべく職員は、授業力向上、生徒指導、部活動などに積極的に取り組む学校風土を育み、新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導やGIGAスクール構想の実現に時間を惜しまず取り組んできた。一方で、教職員の働き方改革の推進により、職員は、教育活動の質の向上に誇りをもちながら心身の健康を保持し、豊かな教員人生を歩むことを意識するようになり、持続可能でバランスのとれた学校風土の創造へと転換が図られている。

網走市では平成25年から網走小学校が「学校力向上に関する総合実践事業」の指定を受け、先進事例に積極的に取り組み、その成果を域内の学校に発信してきた。

令和2年度からは網走小学校を中核校として、潮見小学校、第三中学校、そして第一中学校が地域指定校として参加し、今年度からは南小学校を加えた5校での実践がスタートしたところである。

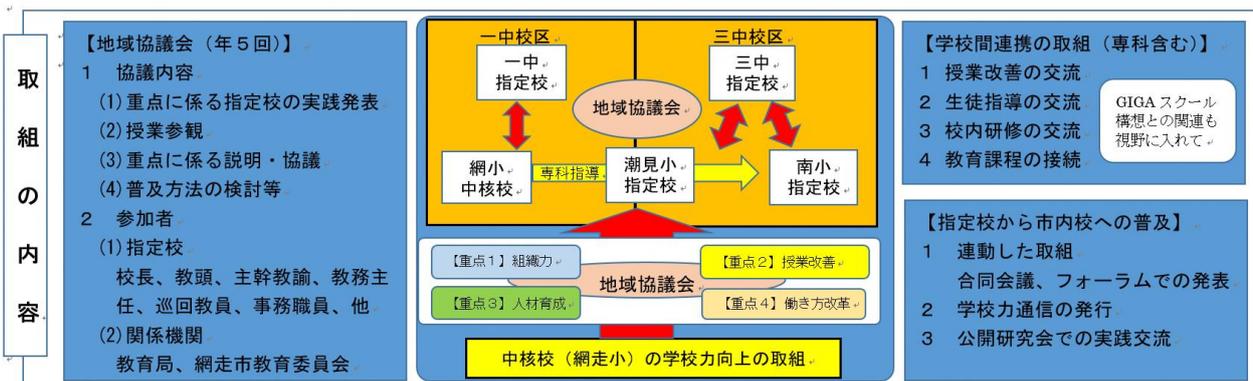
本校は、本事業の趣旨を踏まえ、組織体としての機能を十分に発揮し、地域の教育資源を総動員しながら教育活動を推進することで新たな「一中風土」の構築を目指している。



3 令和3年度の指定地域の概要

学校力事業における網走市の地域指定は、第一中学校と第三中学校の二つの中学校区による5校で構成している。第一中学校区には中核校の網走小学校と潮見小学校が所在し、そのうち本校と網走小学校との間では、今年度から学校間連携を強化している。

昨年までの網走市における学校力向上の取組では、中核校における組織力強化、授業力向上、働き方改革などの実践を指定校に普及し取組の拡大を図ってきた。今年度は、その成果を各校でより確かな実践として定着させ地域全体の学校力向上につなげている。



【網走市の地域指定の構想図】

4 「地域協議会」のロードマップ

今年度は5校中3校の校長が新たに着任し、4月8日には、中核校に5人の校長が集まり本事業の具体的な推進方法と年間の予定を確認した。各校でリーダーシップを発揮するためにも連携する校長間の共通理解は重要である。今年度は年間5回、各校を会場に地域協議会を開催し、各回とも中核校からの全体説明、会場校の取組状況の報告、全ての学級の授業参観を行い、その後に協議を行うこととした。

また、オホーツク教育局と管内校長会、教頭会の三者による「オールオホーツクで学力向上を！」と、「網走市学力向上推進委員会（AGK）」の取組を関連付けるとともに、指定校以外の学校には、AGK主催の「学力向上フォーラム」や市のICT活用推進委員会と連動させた取組により普及することとした。

時期	学校名	中核校からの全体説明	全体説明を受けて協議・交流等	働き方改革の交流
5月	網走小 Zoom	本事業の取組についての説明 ・取組の年間計画 ・経営への位置付け（GD、学校評価）	今年度の取組の見通しについて ・課題の明確化・今後の方策	会場校の取組の発表
7月	第三中	調査等を踏まえた授業改善について ・学力調査、学力検査等の分析と改善	第三中の取組の交流・課題整理 ・組織的な取組 ・授業改善への手立て	働き方改革の取組の交流 ・レポート交流 ・発表
9月	第一中 meet	前期学校評価の分析結果と組織的な改善について	第一中の取組の交流・課題整理 ・学校評価の分析交流	働き方改革の取組の交流 ・レポート交流 ・発表
11月	潮見小	小中連携について ・全国大会の報告・次年度の組織的な取組に向けて	小中連携した授業改善の交流 ・指導力向上の交流 ・家庭学習の交流	働き方改革の取組の交流 ・レポート交流 ・発表
1月	南小	後期学校評価の分析と次年度への取組について	南小学校の取組の交流 ・課題整理 ・次年度への手立て	働き方改革の取組の交流 ・次年度のアクション・プラン交流

【地域協議会ロードマップ】

5 各学校での実践化に向けた重点

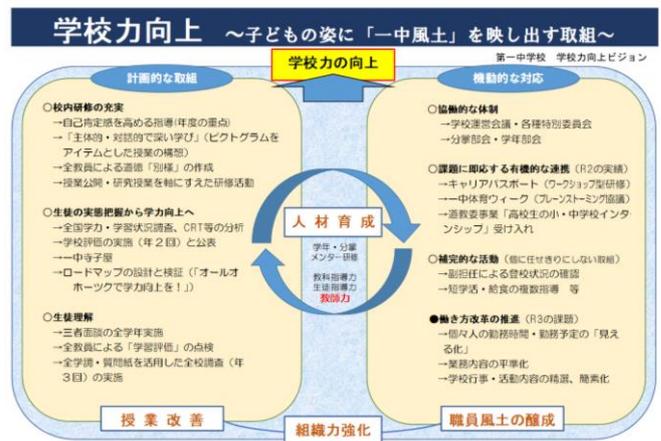
- (1) 4つの重点「組織力」「授業改善」「人材育成」「働き方改革」を学校経営のグランドデザインに位置付け、学校の実態に応じた取組を推進する。
- (2) 本事業の到達目標を学校評価の項目に位置付け、取組状況の検証と改善を図る。
- (3) 地域協議会の会場校は、4つの観点に基づいた取組を発表するとともに授業公開する。

6 4つの重点で高める「一中風土」

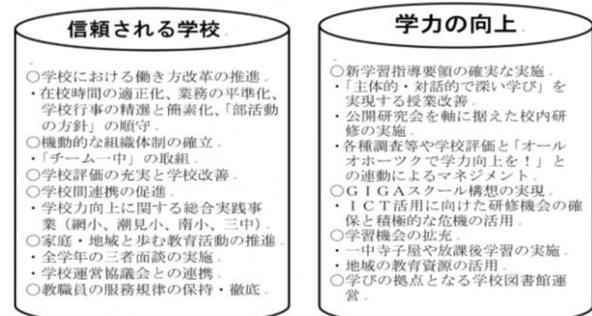
本校では、学校力向上の取組を推進するに当たり「組織力強化」「授業改善」「人材育成」「職員風土の醸成（働き方改革）」の4つの重点を設定した。とりわけ、授業改善と働き方改革への取組を柱とすることで組織力が強化され、同時に人材育成が図られることをねらいとして「第一中学校学校力向上ビジョン」を策定し職員の共通理解を図った。

(1) 組織力強化に向けた共通理解

学校経営の土台となるグランドデザインで示した内容のうち、「働き方改革」については、保護者と学校運営協議会に対して、特に丁寧に説明した。具体的には、「一人一人の職員が健康で、心にゆとりをもって教育活動に取り組むことが子どもたちのよりよい成長につながること」「部活動を含め、教育活動全般においてこれまでとは違う方針を示させていただくこと」、「課題があるときは、PTA役員の皆さんと相談させていただきながら丁寧に進めさせていただくこと」を伝え理解を求めた。



【第一中学校 学校力向上ビジョン】



【令和3年グランドデザインから】

(2) 計画的に推進する授業改善

校内研修では、昨年度から「主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業づくり～ピクトグラム 19 項目の実現に向けて～」を研究主題に掲げ、授業改善を推進してきた。10 月に開催した研究授業においては、研究主題の具体化に向け、授業者と研究推進委員による指導案検討を複数回設定した。その中で、授業者の若手職員が積極的に端末を活用しようと工夫する姿が見られ、多くの職員にとって刺激となった。

学校全体における端末の活用に向け、網走市 ICT 活用推進委員会のコアチームに所属している本校の主幹教諭が、ICTに関する専門的知識と技能を提供することをねらいとした通信の「あい・すい～・てい～」を本校職員向けに発行している。内容は端末の具体的な活用方法が中心で、本校で活用している端末で利用できる問題のアクセス先や設定方法、マニュアルの保管場所など、即時活用できるタイムリーな情報を掲載している。また、教務主任が網走市学力向上推進委員会（AGK）中学校部会の部長を務め、市内の職員に向けて AGK 通信を発行している。自校はもとより、市内全ての学校職員の職能向上に貢献しており、そのような同僚と教育活動を推進していることが、本校職員の授業改善に向かう意欲の向上にもつながっている。



【令和3年度の具体的取り組み】



【研究授業の様子】

(3) メンター研修による人材育成

新型コロナウイルスのまん延により、以前に比べて教職員の研修機会が減少している。特に、新採用の職員が他校の授業を参観する機会を失い、専門的知識や技能を身に付ける研修会や講演会も軒並み中止や縮小となっている。そこで、新採用職員と先輩職員の交流の場として「初任カフェ」を月1回のペースで開催することとした。

学校計画研修（初任段階研修の必修研修）とは別に、広範囲な話題により教員間のつながりを広げる機会としている。時間割を調整し、勤務時間内に参加者の時間を確保することも重要なポイントである。内容は、業務に関わる話のほか、タイムリーな話題や日常の心がけ・ちょっとしたこだわり、質問タイムなどを想定している。新採用の職員にとっても貴重な研修の場になるとともに、ミドルやベテラン層の職員にとって、職場風土の伝承や組織の在り方、人生の先輩としての思いを伝えることでモチベーション向上にもつながっている。



【初任カフェ】

(4) 職員風土の醸成

① 働き方改革

働き方改革は、教育の質の向上のために取り組んでいることから、これまで学校が当たり前に取り組んでいたことの見直しを図り、本当に子どもたちのためになることを再検討した。

本校でも、部活動指導が在校時間を超過させる要因となっていたが、まずはできることから確実に取り組むことをねらいに「個別の定時退勤日」や「伝言ボード」から開始した。これらは中核校の網走小学校が普及させた取組である。以前は学校としての定時退勤日を設定していたが、個別の定時退勤日の方が実行しやすいと職員からは好評である。うっかり忘れてしまうこともあるため、C 4 t h

で毎朝確認する「本日の予定」に掲載している。部活動指導についても、「網走市立学校における部活動の方針」に則って活動することにより、一週間の指導時間は減少している。また、毎月の在校時間の平均値を職員会議の議題の下部に掲載し、毎月全職員で確認することも意識化を図る上では有効な手立てとなっている。

② 9年間を見通した一体的な教育活動（学校間連携）

指定校となったことで、校区の小学校との連携がより充実し、系統的な教育活動を意図的、計画的に推進できるようになった。昨年度は、中学校の英語教諭が小学校を訪問し、乗り入れ授業を行った。乗り入れ授業を実施した本校職員は、入学前から子どもたちの様子を把握することができ、受け入れる側としても安心感が増したとその価値を高く評価している。今年度は、学校間連携の取組について、校長間で方向性と推進内容を確認した後に、教頭、主幹教諭、教務主任、担当教師を含めて Zoom によるリモート会議を開催し、授業改善、生徒指導、校内研修、教育課程の交流を進めていくことを確認した。



【研究授業の様子】

また、情報交流をより円滑に行うために Google Classroom を活用することとなり、中核校と本校との間で新たな情報交流チャンネルが生まれた。授業の様子を配信したり、総合的な学習の時間の指導計画を交流したりするなど、新たな連携の在り方を確立することができた。

③ 地域協議会におけるリモート授業の検証

本校で開催した第3回地域協議会においては、新型コロナウイルスへの対応のため Google Classroom を5校でつなぎ、本校の実践発表と中核校からの報告、授業参観をリモートで行った。コロナ禍の学校では、学校閉鎖等への対応として端末の持ち帰りやリモートでの授業が求められており、網走市の学校では既にその準備は整っていたものの、配信の質についての検証は行っていない状況であったことから、各校に配置されている端末と通信環境でどこまで円滑に授業を配信できるかを検証する機会とした。検証の結果、音声や画像などに関わる課題が明らかになり、デバイスの追加や通信環境の整備など、教育委員会の協力を得ながら改善を図っている。

7 成果と課題

(1) 成果

授業改善の視点では、小中連携による系統的な指導や授業改善の取組を推進したことにより、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果において、国語・数学とも全国の平均正答率を上回ることができた。

働き方改革の視点では、4月から10月までの平均時間外在校時間を昨年と比べると、僅かに-0.4時間であったが、文化祭時期を含む10月の平均時間外在校時間は-7.2時間と大きく減少させることができた。

(2) 課題

組織力の視点では、ICT活用について、全ての教育活動で効果的に活用できるまでに至っていないことから、1人1台端末を学習用具の1つとして考え、組織的に教員の指導力向上に向けた研修に取り組む必要がある。

人材育成の視点では、数値を用いた見える化に課題があることから、職員の学校評価等を活用して、学校全体の取組にしていく必要がある。

8 終わりに

5校による学校力事業の取組が開始され、成果を実感している。長年に渡り学校力向上の取組を継続してきた網走小学校の成果を継承しながら、本校の実践が他校の教育活動に貢献できるよう地域連携の取組を充実させていきたい。